

戦後から 79 年、思いを馳せご冥福を祈る 戦没者・殉職者合同追悼式を開催

12月17日、総合交流センターで行われた「戦没者・殉職者合同追悼式」に約30名が参列し、黙とうを捧げて亡くなられた方々へご冥福を祈りました。遺族会の久保幸雄会長は「多くのかげがえのない命が失われた深い悲しみは今でも尽きることはない」と追悼の言葉を述べ、遺族や関係者が献花台に菊の花を手向け追悼しました。



戦争が終わり今年で79年。今の平和な暮らしが、多くの犠牲の上に築かれていることを後世に伝えていく必要があります。

錦江中の桑原陽翔さんは「耳標をつけるのは初めてでドキドキした。思っていたより力を入れないとつけられなかった。」と話しました。



錦江町の中学3年生57名が畜産業を学ぶ 牛の見分け方や安全管理など学習

町の基幹産業である畜産業について理解を深めてもらおうと、6年前から始まった「畜産業を学ぶ会」が12月6日に開催されました。牛の見分け方や安全管理についての学習、子牛への「耳標」取り付け体験が行われ、錦江中と田代中の3年生57名が参加。錦江町産の牛・豚・鶏肉のバーベキューも行われ、農家や関係者との交流が図られました。



2年の川畑志乃さんは「气象台から出される警戒レベルによって、自分たちが取るべき行動が変わってくることを学んだ。少しでも危ないと感じたら、家族とすぐに避難したい。」と語りました。



防災気象情報をもとに冷静に避難

田代中で防災教室開催

鹿児島地方気象台の現役予報官2名を講師に招き、田代中全校生徒に向けた防災教室を行いました。生徒たちは、气象台から発表される防災気象情報とそれらに対する正しい対応についてワークショップ形式で学習。グループごとに居住エリア、家族構成、家屋状況など異なる条件を設定し、どのタイミングでどのように避難すべきか意見を出し合いました。

日本の文化を通して交流を 大根占小学校で餅つき大会開催

12月14日、大根占小学校で餅つき大会が開催されました。今回は錦江町に来ている外国人技能実習生等も9名参加し、児童と一緒に餅つき体験を行いました。外国人の方と一緒に餅をついた大根占小4年迫誠之介さんは「今まで外国人の方と接したことがなかったが、国の言葉も知れて良かった。今後も関わってみたい」と話してくれました。



子どもたちからインドネシア語の挨拶をしたり、積極的に話しかける様子もあり、餅つきを通して交流が生まれました。

大原地区公民館青年部の山元大志さんは「大原小にたくさんの子どもの声が溢れていた。今後も続けていきたい。」と語りました。



閉校後の跡地活用の可能性を探る 大原スクールマーケット大盛況

12月15日、今年度で閉校になる大原小を会場とした「大原スクールマーケット」が開催されました。大原地区公民館が主催し、屋外では飲食の販売、体育館ではジョイサウンズや伊藤愛さんによる演奏や、体験ブース、雑貨の販売などが行われました。会場は町内外からの観客で大にぎわい。閉校前の大原小に活気が戻り、笑顔あふれる1日となりました。

プロ歌手2名 庄巻の歌声響き渡る ハートフルコンサート 満員御礼

12月1日、町文化センターにて町制施行20周年記念「渡辺真知子・秋川雅史ハートフルコンサート」が開催されました。チケットは完売し、開場前には長い列ができるほどの盛況ぶり。満席のホールには渡辺さんと秋川さんの力強い歌声が響き渡り、会場は大いに盛り上がりました。



「♪かもめが翔んだ日」や「♪千の風になって」が披露されると、会場の盛り上がりは最高潮に。拍手や声援が送られました。

大根占小4年の柳田大輝さんは「豚肉が甘くておいしかった。もりもり食べて元気いっぱい。」と満面の笑顔を見せてくれました。



「1129の日」にちなんで舞桜豚ふるまい 仮屋ファームが豚肉35キロ提供

給食用食材に、(有)仮屋ファームから舞桜豚35kgが提供され、11月29日に町内8小中学校で「舞桜豚の甘辛丼」約500食がふるまわれました。舞桜豚の提供は今年で7回目。毎年この日を楽しみにしている子どももいるそう。代表の仮屋順平さんは「残さず食べて、子どもたちに元気になってもらえれば」と語りました。